

## ベブイスイミングについて (第4報)

### 一 水泳開始時期に関する検討基礎調査 (保育課程学生の水泳力調査)

研究第2部 斎藤幸子・窪龍子・宮崎叶

研究第3部 加藤忠明

共同研究者 曾根秀子 (保健指導部)

#### I 研究目的

昭和55年よりベブイスイミングについて検討を行ってきたが、今回その一資料として短大保育課程学生の水泳力調査を行った。かつて母親を対象として行ったベブイスイミングの調査で、子どもが泳げるようになる事を目的とした母親は15%みられたが、ベブイスイミングという言葉が聞かれなかった時代に育った若者は、どの程度泳げるのであろうか。現在18~20歳の者はどのようにして水泳を習得したか、泳げない者はどれ位の割合かなどを調べ、人の成長課程における水泳習得の一般的傾向を知ろうとした。

また本調査の対象は近い将来、保育や幼稚園教諭になる者が大半を占めている。近年の保育園、幼稚園ではプールを設置する所が増えているので、その指導者の予備軍の水泳力との見方もできる。

#### II 調査方法および内容

3カ所の短期大学保育課程に在籍中の女子学生を対象にアンケート調査を行った。短大所在地はI校・神奈川県相模原市、A校、東京都渋谷区、T校、東京都港区である。アンケートの配布数571、回収率100%、有効回答数561であった。

調査期間は昭和58年5月~6月。調査内容については本稿末尾に調査票を添付した。

#### III 調査結果

対象の年齢は18歳123名(21.9%)、19歳334名(59.5

%)、20歳71名(12.7%)、その他9名(1.6%)、不明24名(4.3%)で、大学別人数は、I校394名、A校83名、T校84名であった。

##### 1. 全体集計

###### ①水泳力

水泳力は表1の通りであるが、「息つきしながら泳げる」495名のうち、25m以上泳げる者は480名(85.6%)である。本報告ではこの480名を「泳げる群」とする。表2は種目別に泳げる群の水泳力を示した。

###### ②海やプールの好き嫌い

水泳力にかかわらず、との前提で質問したが、集計上は水泳力とクロスさせた。「好き」「特に好き」を合わせて、524名(93.4%)と好きとした者が多数を占めた。泳げなくても「好き」と水に親しみをもつ者も多い。反対に「嫌い」で「泳げない」という全く水に対して拒否的な者は3名(水が怖い1名、浮く程度はできる2名)で、全体の0.5%とわずかであった。

###### ③初めて水に入った経験

初めて海やプールなどで水に入った時のことを覚えていた者は90名(16.0%)、親などから聞いて知っている者が99名(17.7%)、はっきり覚えていない者は372

表1 「水泳力」

	N	%
水が恐く、プール・海は敬遠している	3	0.5
もぐったり、浮く程度はできる	9	1.6
息つきはできないが、一息で数メートル進む	54	9.6
息つきしながら泳げる	495	88.3
計	561	100.0

表2 種目別泳力

( )内は%

	クロール	平泳ぎ	背泳ぎ	バタフライ
25m～	171 (35.6)	116 (24.2)	164 (34.2)	36 (7.5)
50～	157 (32.7)	144 (30.0)	97 (20.2)	15 (3.1)
100～	54 (11.3)	76 (15.8)	33 (6.9)	5 (1.0)
200～	13 (2.7)	40 (8.3)	12 (2.5)	6 (1.3)
400～	12 (2.5)	22 (4.6)	9 (1.9)	7 (1.5)
いくらでも	4 (0.8)	7 (1.5)	3 (0.6)	0 (-)
無回答	69 (14.4)	75 (15.6)	162 (33.8)	411 (85.6)
計	480 (100.0)	480 (100.0)	480 (100.0)	480 (100.0)

表3 泳力と海・プールで水に親しむことの好き嫌い

	水が怖い	浮く程度	一息泳げる	息つき可	計
好き	1 (33.3)	6 (66.7)	47 (87.1)	470 (94.9)	424 (93.4)
嫌い	1 (33.3)	2 (22.2)	6 (11.1)	7 (1.4)	10 (1.8)
興味なし	1 (33.3)	1 (11.1)	1 (1.9)	14 (2.8)	22 (3.9)
無回答	- (-)	- (-)	1 (1.9)	4 (0.8)	5 (0.9)
計	3 (100.0)	9 (100.0)	54 (100.0)	495 (100.0)	561 (100.0)

表4 初めてプールや海へ入った時の年齢

	N	%	累積
1歳以下	20	3.6	3.6
2歳	50	8.9	12.5
3	158	28.2	40.7
4	85	15.2	55.9
5	77	13.7	69.6
6	34	6.1	75.7
7	15	2.7	78.4
8	4	0.7	79.1
9	1	0.2	79.3
不明	117	20.9	100.2
	561	100.0	-

表5 初めて水に入った場所

	n	%
学校のプール	62	11.1
遊泳プール	109	19.4
スイミング・クラブ	5	0.9
河川・湖	37	6.6
海	221	39.4
幼稚園のプール	29	5.2
家のプール	4	7.1
その他	13	2.3
不明	81	14.4
計	561	100.0

名(66.3%)であった。

分る範囲で最初に水に入った時の年齢と場所を答えてもらった結果が表4、表5である。いずれも不明が多いのは、思い出せない程幼少であったと考えることができる。

表4では3歳までにすでに40.7%の者が水に入った経

験をもっていることが分る。しかし、これは水あび程度がほとんどで、今日のベビースイミングと同じ内容とは考えられない。

表5、初めて水に入った場所は、海221名、川・湖37名、合わせて258名(45.0%)と自然の中ですが、割合多くを占めていた。

表6 出身保育園～高校のプール設置状況

		あ り	な し	借 用	計
保育園	公立	34 (48.6)	32 (45.7)	4 (5.7)	70 (100.0)
	私立	26 (53.1)	23 (46.9)	- (-)	49 (100.0)
	計	60 (50.4)	55 (46.2)	4 (3.4)	119 (100.0)
幼稚園	公立	46 (43.4)	48 (45.3)	12 (11.3)	106 (100.0)
	私立	154 (47.7)	154 (47.7)	15 (4.6)	323 (100.0)
	計	200 (46.6)	202 (47.1)	27 (6.3)	429 (100.0)
小学校	公立	472 (91.3)	9 (11.7)	36 (7.0)	517 (100.0)
	私立	27 (75.0)	7 (19.4)	2 (5.6)	36 (100.0)
	計	499 (90.2)	16 (2.9)	38 (6.9)	553 (100.0)
中学校	公立	405 (84.6)	51 (10.6)	23 (4.8)	479 (100.0)
	私立	40 (54.1)	32 (43.2)	2 (2.7)	74 (100.0)
	計	445 (80.5)	83 (15.0)	25 (4.5)	553 (100.0)
高校	公立	249 (65.0)	112 (29.2)	22 (5.8)	383 (100.0)
	私立	81 (47.4)	85 (49.7)	5 (2.9)	171 (100.0)
	計	330 (59.6)	197 (35.5)	27 (4.9)	554 (100.0)

表7 小・中学校のプール設置率（昭和50年 自治省「公共施設状況調」より）

項 目		年	全市町村	特別区	大都市	中都市	小都市	町、村
プ ー ル 設 置 率 （ ％ ）	小 学 校	45	40.1	94.1	74.1	58.3	41.6	27.4
		50	58.1	97.0	83.8	72.8	59.5	45.1
		55	68.7	98.4	88.6	80.8	69.2	56.9
	中 学 校	45	34.7	87.4	71.6	51.0	33.8	22.3
		50	50.0	93.8	80.4	67.8	48.0	35.0
		55	59.6	97.1	85.1	76.8	56.1	43.7

④教育課程の中での水泳経験

表6に回答者が通った保育園から高校までのプール設置状況を示した。私立と公立で比較すると、保育園、幼稚園では差がないが、小学校以上では、公立より私立に「プールなし」が多くなっている。

参考に自治省の行った「公共施設状況調」を表7に示す。公立学校のみの数値である。われわれの行った調査の対象者は19歳が最も多く、昭和50年には10歳である。出身小学校の所在地は東京都内95、横浜市78、川崎市24、その他地方都市207、群都48である。従って、小学校のプール設置率90.2%と、表7の特別区、大都市の値に近くなっている。

次に各施設のプール使用期間を表8に示した。この結

表8 プールの使用時期

	夏季のみ	通 年	計
保育園	67 (100.0)	- (-)	67 (100.0)
幼稚園	236 (96.7)	8 (3.3)	244 (100.0)
小学校	527 (96.9)	17 (3.1)	544 (100.0)
中学校	463 (96.7)	16 (3.3)	479 (100.0)
高 校	344 (94.2)	21 (5.8)	365 (100.0)

果はすなわち、室内温水プールがあるか否かという内容であるが、一年を通して泳げる設備をもつところは0.0～5.8%とまだ少なかった。

しかし夏季のみとはいえ、プールの普及率はかなりで

あることが分った。ここで実際に水泳実習に参加したか否かを表9に示した。ほとんどが必修で全員参加が多い。

プールとは違った意味での教育効果が期待される臨海学校については、最近実施する校が減っていると伝えられる。対象者の経験について、表10、表11に示した。

臨海学校の実施校は小学校でみると、「全員参加」と「希望者のみ参加」を合わせても104校（18.5%）と10年程前でもあまり多くない。実際に参加した者は98名と全体の17.5%であった。

⑤水泳を休む原因

前述臨海学校に不参加であった者の理由は表12に示した通りで、中学・高校になると「行きたくなかった」「他に用事があった」などが目につく。

その他病気などの原因で長い間水泳を休まざるを得なかった経験があるか否か表13に示した。これは2週間以上水泳を止められるような、病気、外傷を何回したかの結果である。またかつてはツベルクリンの陽転した年は水泳を止められていたことがあったので、これについて表14に示した。

⑥水泳指導の自信

回答者が近い将来、保母や幼稚園教諭になり、園にプールがあった場合、こどもに水泳を教える自信があるか否かを質問した。泳力とクロス集計した結果が表14である。「泳げなくても教えることはできると思う」が計60名あったことに驚かされた。

わが国の水泳指導員の資格は各団体に独自に認定しているが、ここでは日本水泳連盟の例について記す。水連の指導員は次の3段階に分かれている。1. 一般水泳第2種指導員、2. 一般水泳第一種指導員、3. 一般水泳上級指導員である。初心者教えることのできる第2種指導員の検定における泳力についてのみあげれば、100m個人メドレー、20mの横泳ぎ、潜行男20m、女15m、でそれぞれ制限タイム、泳形に規定がある。これを本調査対象にあてはめてみたい。表2にもどって、個人メドレーとはいかなくても、種目別で100m以上泳げる者は、一番多い平泳ぎで、145名（全体の25.8%）である。これに対し、表15で教えられると思っている者は493名

（87.9%）であった。

2. 泳げない群（81名）の集計結果

水泳が苦手な原因は何だと思うかを表16に示した。「よき指導者に恵まれない」18名、「何度か挑戦したが泳げるようになれない」19名など、指導法、練習法に問題があったと思われるものが、病気など止むを得ない理由をやや上廻っていた。

表9 プールの水泳実施状況

	必修であった	選択した	選択しなかった	計
保育園	50	1	1	52
幼稚園	213	5	5	223
小学校	540	2	0	542
中学校	466	2	6	474
高校	341	5	10	356

表10 臨海学校の有無

	あ り		な し	計
	全員参加	希望者のみ		
保育園	0	1	95	96
幼稚園	7	4	347	358
小学校	86	18	430	334
中学校	46	23	454	523
高校	16	24	442	482

（無回答は除く）

表11 臨海学校参加者

	参加した	不参加	無回答	計
保育園	1	0	0	1
幼稚園	9	1	1	11
小学校	98	2	4	104
中学校	50	14	5	69
高校	23	14	3	40

表12 臨海学校不参加の理由

	病 気	外 傷	行きたくなかった	他の用事	親の方針	その他	計
幼稚園	-	-	-	1	-	-	1
小学校	1	-	-	1	-	-	2
中学校	-	-	4	8	-	2	14
高校	1	-	5	7	-	1	14

表 13 2週間以上水に入れなかった既往症

	病 気	外 傷
1 回	41 (7.3)	22 (3.9)
2	7 (1.2)	1 (0.2)
3	2 (0.4)	— (—)
4 ~	8 (1.4)	1 (0.2)
記載なし	503 (89.7)	537 (95.7)
計	561 (100.0)	561 (100.0)

表 14 ツベルクリンの陽転で水泳を止められたか

	N	%
止められた	93	16.6
止められない	180	32.1
無 回 答	288	51.3
計	561	100.0

表 15 水泳指導の自信と泳力

	水が怖い	浮く程度	一息で進む	息つき可	計
指導員の資格あり	—	—	—	2	2
教える自信あり	—	—	—	41	41
一応泳げるので教えられ と思う	1	—	41	376	388
泳げないが、教えられる	1	4	25	30	60
自分の泳力では教えられ ない	1	5	17	43	66
無 回 答	—	—	1	3	4
	3	9	54	495	561

表 16 水泳が苦手な原因（重複回答2）

	n	%
水に親しむ機会が少なかった	14	17.3
病気などの原因で機をのがした	10	12.3
よき指導者に恵まれなかった	18	22.2
何度か挑戦したが、泳げるようにならない	19	23.5
水に対する恐怖心が強い	8	9.8
そ の 他	7	8.6
無 回 答	7	8.6
計	83	—

表 17 25m泳げるようになった年齢

	N	%	累 積
3歳	2	0.4	0.4
4	-	-	0.4
5	-	-	0.4
6	7	1.5	1.9
7	21	4.4	6.3
8	61	12.7	19.0
9	59	12.3	31.3
10	130	27.1	58.4
11	57	11.9	70.3
12	72	15.0	85.3
13	24	5.0	90.3
14	12	2.5	92.8
15	8	1.7	94.5
16	11	2.3	96.8
17	2	0.4	97.2
18	1	0.2	97.4
N. A	13	2.7	100.0
計	480	100.0	-

表 18 泳げるようになった場所

	N	%
育った環境に海・河川などがあり、遊びの中から自然に覚えた。	28	5.8
学校教育の体育の授業中に、泳げるようになった。	207	43.1
体育の授業中では不十分なので、課外活動や夏休みに学校のプールで	129	26.9
両親など身近かで水泳の得意な人から習った。	52	10.8
スイミングスクールに通った。	46	9.6
その他	13	2.7
N. A.	5	1.0
計	480	100.0

今後泳げるようになりたい者は72名(89.9%)、「必要ない」は4名(4.9%)、「泳げるようになれないとあきらめている」は5名(6.2%)であった。

3. 25m以上泳げる群(480名)の集計結果

種目を問わず25m以上泳げるようになった年齢を表17に示した。8~12歳頃泳げるようになる者が多く、小学

校卒業年齢までに85.3%が泳げるようになっている。

泳ぎを覚えた場所について表18に示した。学校のプールが、授業中、課外や夏休みを合わせ330(70%)を占め、海や川など自然の中では28(5.8%)と少なくなっている。

IV まとめと考察

現在18~20歳位の者は、小学校のプールで水泳を習得した者が多いことが分った。またその前段階として3歳頃までにもかなり海・プールなどで水に入る経験をしており、就学前にある程度の水慣れはしていると考えられた。

泳げない群では、泳げなくても水に入ることは好きな者が大部分で、「泳げないし水に入るのも嫌い」という全く拒否的な者は極く僅かであった。

子どもに水泳を教えられかどうかでは、あまり泳力がないにもかかわらず、教えられている者が多かった。

以上、10年程前の水泳習得の場は小学校のプールが中心であり、水に対して親しみをもっている者が多いことが分った。しかし、ある程度泳げる者は多いが、水全般についての理解(あらゆる状況下での安全性など)が十分かどうかについては疑問が残った。

V おわりに

本調査はベビースイミングに関する研究の参考資料として行った。ベビースイミングに対する否定的意見の一つは「何もそんなに早くから始める必要はないのではないか」という疑問からくるものである。我々も単に泳げるようになることを目的とするなら、水泳コーチが効率<sup>3)</sup>がよいと指摘する5~6歳で始めるのがよいと考える。本調査ではこの点がいくらか裏付けられた。

一方、ベビースイミングの目的を「歩行開始後の水難事故防止のため」とする説がある。確かに幼児の水難事故の多発を考えれば、本調査結果のごとく就学後泳ぎを覚えるのでは遅いと言えよう。しかし、わが国における幼児の水難事故は家庭内でも多発<sup>6)</sup>していること、今回の調査で「泳げなくても子どもに水泳を教えられる」とした者があったことなどを考えれば、水難事故防止は幼児から成人までを対象とした安全教育の立場からサポートされるのが、わが国の実情に合っていると考える。その一環として、体で水を理解するという意味での水泳開始時期の検討は必要であろう。

斎藤他：ベブイスイミングについて（第4報）

参 考 文 献

- 1) 曾根秀子, 他: ベブイスイミングについて (第2報) 泰流社 1975  
 母親の意識調査, 愛育研究所紀要第17集, P 21~31, 1981
- 2) 昭和57年国民生活白書: 経済企画庁, P 137, 1982
- 3) (財)日本水泳連盟編: 新訂水泳指導教本, 大修館書店 1983
- 4) バージニア・ハント・ニューマン: 0歳からの水泳
- 5) 林夕美子, 林裕三: 0歳からの水泳指導, 講談社, 1979
- 6) 鈴木是人, 他: 溺死最近の傾向, 厚生指標 Vol 26 No 8, 1979.

水泳（泳力）に関するアンケート調査

お名まえ： \_\_\_\_\_ 生年月日：昭和 年 月 日

以下の設問であなたの該当する項目を選び、番号に○印をつけてください。  
また、表や（ ）内などの空欄には記入してください。

この欄には記入  
しないでください。  
↓  
1  
2

- (Q1) あなたの泳力はどれくらいですか。4)～6)は2つ以上○をつけて結構です。
- |  |   |
|--|---|
| 1) 水が恐く、プール・海は敬遠している。  | {<br>クロール ( ) m<br>背 泳 ( ) m<br>平 泳 ぎ ( ) m<br>バタフライ ( ) m<br>その他 ( ) ・ ( ) m |
| 2) もぐったり、浮く程度はできる。   |   |
| 3) 息つきはできないが、一息で数メートル進むことができる。   |   |
| 4) 息つきしながら泳げる。→ どんな種目を何メートル位ですか。   |   |
| 5) 遠泳の経験がある。→ 最長距離 ( ) km、時期 ( ) 歳の時。  |   |
| 6) 水泳選手として練習したことがある。 <div style="margin-left: 20px;">                 {<br/>それはいつ頃でしたか。<br/>どこで練習しましたか。 1) 水泳部：学校名 ( )<br/>2) スイミングクラブ名 ( )<br/>得意な種目、距離、タイム、記録した年次、年齢<br/>( ) ( ) m ( ' " ") 昭和 ( ) 年 ( ) 歳<br/>( ) ( ) m ( ' " ") ( ) ( )             </div> |   |

Q 1  
1) - 4) 3  
  
5) 4  
6) 5

(Q2) 泳力にかかわらず、あなたはプールや海へ行って水に親しむのが好きですか。

- 1) 好き    2) 特に好き    3) きらい    4) 興味がない

Q 2 6

(Q3) 初めてプールや海へ入ったのは、何歳の時だったか覚えてますか。

- 1) 覚えている。    2) はっきり思い出せない。    3) 親などから聞いて知っている。

Q 3 7

(Q4) 前問 (Q3) の回答にそって、あなたの分る範囲で、一番年少で水に入ったのはいつでしたか。

またそれはどこでしたか。 年齢→ ( ) 歳の時

- どこで → 1) 学校のプール    2) 遊泳プール    3) スイミング・クラブ    4) 河川・湖  
5) 海    6) その他 ( )

Q 4 8  
9

(Q5) あなたが保母や幼稚園教諭になった時、子どもたちに水泳を教えることができますかと思えますか。

- 1) 水泳指導員の資格をもっている。
 

{ 資格の種類又は取得先 ( )  
 実際に指導したことはありますか。 1. あり    2. なし
- 2) 資格はないが、泳ぎに自信があるので、教えられる。  
3) あまり自信はないが、一応泳げるので教えられると思う。  
4) 泳げないが、教えることはできると思う。  
5) 自分の泳力では教えられない。

Q 5 10  
11

(Q6) ツベルクリン反応が陽転したのは何歳の時か覚えてますか。

- 1) 覚えている → ( ) 歳の時 → それは次のどれに当たりますか。
 

{ 1. BCGによる陽転  
 2. 自然陽転  
 3. わからない
- 2) 覚えていない。  
3) 今も陰性で陽転していない。

Q 6 12  
13  
14

(Q7) ツベルクリンが陽転した時、水泳を止められましたか。

- 1) はい    2) いいえ

Q 7 15



斎藤他：ベビースイミングについて（第4報）

〔Q8〕 これまでにあなたの受けた教育課程の中での水泳経験に関して、表の上欄の設問にお答えください。〈例〉のように当てはまる項目の番号を選んで記入してください。図：学校の所在地は具体的に書いてください。

設問	1.公立 2.私立 3.行かなかった	図：学校の所在地		プールの有無 1.あり 2.なし 3.借用	プールの使用期間 1.夏季のみ 2.通年	プールでの水泳は必修でしたか 1.必修 2.選択した 3.選択しなかった	臨海学校（実習）について		
		都道府県	市区郡				1.参加した 2.不参加	理由 （下欄※から選択）	
〈例〉	1	東京都	三鷹市	3	2	1	2	2	1
保育園									
幼稚園									
小学校									
中学校									
高校									
短大									

Q8 16-24

25-33

34-42

43-51

52-60

61-69

※ 臨海学校不参加の理由 →

1. 病気 2. けが 3. 行きたくなかった 4. 他の用事で都合が悪かった  
5. 親の方針で行かせてもらえなかった 6. その他（ ）

〔Q9〕 病気、けがなどで長い間水泳ができなかったことがありましたら、〈例〉のように記述してください。

（時期）	（理由）	（期間）
中学1年夏	腕の骨折	1カ月

Q9 70

これ以降は「泳げない方」と「泳げる方」と設問が違います。「25m程度泳げない方」は（Q10）～（Q11）に、「25m以上泳げる方」は（Q12）～（Q15）にお答えください。

〈25m泳げない方へ〉

〔Q10〕 現在あなたが水泳が苦手な原因は何だと思えますか。

- 1) 水に親しむ機会が少なかった。（身近にプールなどがなかった）
- 2) 機会はあったが病気などの原因で機をのがした。
- 3) 水に入る機会はあったが、よき指導者に恵まれなかった。
- 4) 何度か挑戦したが、泳げるようになれない。（運動神経の問題か）
- 5) 水に対する恐怖心が強い。
- 6) その他（ ）

Q10 71

〔Q11〕 今後、泳げるようになりたいと思えますか。

- 1) はい 2) いいえ → 理由 1. 必要ないと思っている。 2. 泳げるようになれないとあきらめている。

Q11 72

73

<25m以上泳げる方へ>

〔Q12〕 種目は問いませんが、25m泳げるようになったのは何歳の時でしたか。→ ( ) 歳の時

Q12 74

〔Q13〕 あなたが泳げるようになったのは主にどこでだったと思いますか。1つ選んでください。

Q13 75

- 1) 育った環境に海・河川などがあり、遊びの中から自然に覚えた。
- 2) 学校教育の体育の授業中に、泳げるようになった。
- 3) 体育の授業中では不十分なので、課外活動や夏休みに学校のプールで練習をした。
- 4) 両親など身近かで水泳の得意な人から習った。
- 5) スイミング・スクールに通って覚えた。
- 6) その他 ( )

〔Q14〕 水遊びや水慣れの段階を除いて、泳ぐ練習を始めたのは何歳でしたか。→ ( ) 歳から

Q14 76

〔Q15〕 泳ぐ練習を始めてから、どの位の期間で泳げるように(25m程度)になりましたか。あなたの表現でわかりやすく書いてください。なるべく頻度を含めてください。

Q15 77  
78

<例> 小学校のプールで週2回、体育の授業で練習をし、続けて夏休みに毎日通い、1夏(2カ月間)で泳げるようになった。

( )

☆ ご協力ありがとうございました。

日本総合愛育研究所

宮崎 叶、窪 龍子、加藤忠明、青柳幸子

愛育会総合母子保健センター

曾根秀子